

米国のバイオ燃料事情



Darling が石油精製大手と組んで

バイオディーゼル分野への本格的な参入を目指す

Darling International(本拠地:テキサス州アーヴィング)は、米国各地で畜産副生物等を原料とした動物油脂の生産、およびレストランの廃食用油等の回収、精製を行なっています。

2008年の売上高は約8億ドル、従業員数は約2000名、純利益は約5500万ドルです。

同社の Stuewe 会長兼最高経営責任者が 2006 年第 2 四半期決算説明会で、「いかなる会社にもバイオディーゼルの原料は渡さない」と語っています。

そして 2008 年 9 月に、サンフランシスコ港にある同社の設備を改造してバイオディーゼルを製造すると発表しました。

同社は、「1966 年から同港にある設備で動物油脂を生産しており、今では同港で最大の輸出企業」(2008 年 9 月 12 日、US Fed News)です。

2008 年の同社の利益の約 16%は輸出によるもので、輸出先はアジア、環太平洋地域、北アメリカ、メキシコおよび南米等です。

本年5月に

米国の環境保護庁(EPA)が再生可能燃料基準に関わる規則(RFS2)案を公表しました。

EPA は、「本年中に最終結論を出して 2010 年の早い時期に新規則を施行したい」(8月14日、CQ FD Disclosure)としています。

EPA によるバイオ燃料のライフサイクル分析の結果にはいろいろと議論がありますが、廃食用油等から製造するバイオディーゼルが温室効果ガス排出量を大幅に(80%も)削減するという結果には誰も異論が無いようです。

(Web 版)「世界のエネルギーの話題」(2009 年 10 月 30 日)

Darling はバイオディーゼル分野に本格的に参入する時期が到来したと判断したようです。

そして9月に

Darling は Valero Energy と組んで、ルイジアナ州にある Valero の Norco 製油所(原油処理能力 186,000 bpd)に隣接して再生可能ディーゼル製造プラント(製造能力 10,000 bpd)を建設する計画を発表しました。

実現には、エネルギー省に申請中のプラント建設の債務保証および両社の役員会の承認が必要です。

同プラントは UOP(エンジニアリング大手 Honeywell の子会社)の水素化処理技術を採用するようです。

「UOP が Darling との接触を開始したのは 2 年半前」(10 月 12 日、Fortune)と報じられています。

Valero は、「再生可能燃料基準および市場の動向を考えると、近い将来、アメリカ人の旅行で再生可能燃料が重要な部分になると認識」(9 月 15 日、San Antonio Express-News)しています。

同社のさまざまな再生可能燃料への投資はそれを反映したものと説明しています。

ひとこと

石油メジャーは主に次世代のバイオ燃料の技術開発に力を入れています。Valero は研究開発を終了している技術に特に関心があるようです。

(YY)

本レポートは、世界の 2500 紙以上の新聞、5500 紙以上のビジネス紙および業界紙、600 以上のニュースワイヤー(速報)/プレスリリース等を検索できるファクティバ(ダウ・ジョーンズ社のデータベースサービス)を利用して入手した多数の記事、レポートを比較、分析して執筆しています。(山崎由廣)